

【市民提案】

1. 「川崎宿おもしろ館」(仮称)の整備

【主旨】

1. より多くの人に川崎宿を訪れてもらい、川崎宿の文化や歴史に触れてもらうための情報拠点整備が街道筋に必要です。
2. 街道筋を歩く人たちに、休憩場所を提供するとともに、地元市民との交流をはかりましょう。
3. ガイド活動やイベントの場、川崎宿の文化を核とするコミュニティハウスづくりを目指しましょう。

【内容】

1. 名称

- 「〇〇資料館」など、固いイメージを受ける名称は避けましょう。(古文書が積んであって、歴史を勉強する所というような印象を受けてしまう。)
- 若い人たちにも受け入れられる、やわらかいイメージの名称を工夫しましょう。(例:「川崎宿おもしろ館」、「川崎宿思い出館」、「川崎を知ろう館」など)

2. 機能案

① 休憩所

- 建物内部中央への休憩スペースの設置を提案します。
- 休憩スペースは、数人(理想は7~8人)がテーブルを囲んで座り、休んだり、話ができるくらいのスペースが必要です。
- 無料のドリンクサービスを提供するなど、地元によるもてなし、交流を推進しましょう。
- 休憩者が利用できるトイレの設置を目指しましょう。

② 展示

- 建物内部の壁面上には川崎宿、東海道の歴史に関わる展示を提案します。
- 絵や写真、模型などを中心に、子どもにもわかりやすい展示を心がけましょう。
- 企業や個人が所有する昔の川崎の写真を集めたり、市民ミュージアムからの展示物の借用など展示物の収集に工夫しましょう。
- 川崎宿や東海道のみこだわらず、川崎の歴史全般、近代史(工業発展の歴史)や、川崎区内の産業遺産などに関わる展示も行いましょう。
- 常設展示の他、期間限定の企画展示も展開します。近隣寺社の「川崎宿宝物展」や、「こどもの川崎宿絵画展」など地元参加型の展示の企画を推進します。



品川宿の「お休み処」の内部には、昔の街道筋の様子や、催事の写真が展示されている。

③ 観光案内所

- 観光案内所の機能を持たせましょう。川崎宿の史跡やイベントの資料（ガイドマップなど）を置き、訪れた人が入手できるようにしましょう。
- ガイドの会の事務所の設置を提案します。ガイドの受け付けが「川崎宿おもしろ館（仮称）」でできるようにしましょう。
- インターネットなどの情報検索端末、情報検索コーナーを設置を目指します。

④ 外観

- 大勢の客でにぎわった江戸時代の万年屋や、通りがかりの人が気軽に立ち寄るオープンカフェのように、できるだけ大きく開放的な間口と雰囲気を目指します。
- 看板や案内などを大きく掲示し、施設の趣旨がわかりやすいようにしましょう。
- 提灯、昔風の郵便ポスト、高札模型（実物大）や、わらじなど、小道具の設置で、江戸風の雰囲気をかもしだしましょう。
- 周囲との景観的な調和に配慮しながらも、戸や壁面・窓枠に、木や竹を用いて板塀や格子風にするなど、外観を昔風に演出しましょう。
- あまり手をかけずに昔風情を出す改装のモデルケースとして、周辺の商店や民家が参考とするような外観を目指しましょう。



品川宿の「お休み処」の外観



万年屋のように、通りに対して開放的な出入り口、演出を心がけ、多くの人が気軽に出入りできるようにします。

⑤ 運営・イベントなど

- 案内人や管理人のほかに、川崎宿を核とする地元コミュニティの溜まり場として、地元の人たちが気軽に立ち寄り川崎宿の昔話をするなど、常に誰かがいる場所を目指します。
- 午前9時～午後5時の開館を目指します。
- 高齢者や地元の歴史に詳しい人を招き、昔話や歴史の話聞く会などのイベントを開催しましょう。
- 地域の自治会や商店会の会合、川崎宿に関連する活動の会議やイベントの場としても活用しましょう。

⑥ その他の機能案

- 売店の設置、川崎宿の名物やお土産、茶菓子類の販売を目指しましょう。
- 昔風の郵便ポストを設置、「川崎宿おもしろ館（仮称）」で投函した郵便物だけに押される川崎宿オリジナル消印の作成など検討します。
- クイズコーナーや記念スタンプコーナーも検討します。
- オリジナルのプリクラや、川崎宿ゆかりの人物に扮する貸し衣装による記念撮影コーナーを設置などのアイディアを検討します。



アトムの生誕日に高田馬場郵便局だけで押された消印



明治時代に街道筋に置かれた書状集箱



黄門様ご一行になりきって記念撮影

【実現に向けて】

1. 整備用地の取得

- 旧街道筋の旧新宿周辺を第1候補として、用地取得を目指します。近隣の市所有地や空き店舗など、情報収集に努めます。
- まず開設することを第1目標とし、テナントや民間施設の借用、一時的なプレハブの建設、小面積での限定機能による開館も視野に入れながら検討していきます。機能については、最初から多くを求めず、徐々に充実させていきましょう。
- 中心部以外の街道筋における「分館」の開設も検討します。八丁畷駅付近では、ガイド活動の拠点や資料展示などの機能設置を検討していきます。

2. 運営のしくみ

- 鍵の管理や清掃等の維持管理、休憩所の運営などには市民の参加が不可欠です。地元住民や、川崎宿をテーマとする文化活動団体など、多くの市民に協力を呼びかけ、市民の力を活かす運営を目指します。
- 内装や設備などにはお金をかけず、手作りで少しずつ、時間をかけて作り上げていくことが必要です。
- 将来的には独立採算のとれる運営形態を目指します。市民ボランティアの導入や、売店売上などによる運営資金の確保、NPO組織の立ち上げなど検討していきます。

3. 連携

- 「砂子の里資料館」など既存の施設との連携をはかり、相互に入場者が増え、知名度が上がるようしくみづくりや、宣伝活動を推進します。
- 近隣商店や地元商店と連携し、集客の相乗効果を計ります。